

双日、北海道の風力発電計画中止 住民反対や資材高騰で

2023/6/17 9:39 | 日本経済新聞 電子版

双日は17日、北海道小樽市などで計画していた風力発電所の建設計画を中止すると発表した。小樽市が自然環境への影響などから反対を表明し、北海道の鈴木直道知事も「地域の理解が進んでいない」と発言していた。

双日によると、中止を決めた直接の理由は「数百億円と想定していた建設費が資材高騰の影響で3~4割増え、投資基準に合わなくなってしまったことだ」という。

双日は小樽市と余市町の国有林に最大26基の大型風車の建設を計画していた。2029年春から20年間稼働し、総発電出力は10万9200キロワットを予定していた。双日は「景観への影響を緩和するために配置変更なども提案してきたが、このような結果となり残念」とコメントした。

風力発電建設に伴う環境への影響を懸念する自治体は多く、[関西電力](#)や[オリックス](#)も昨年中止している。

【関連記事】

- ・[北海道知事、小樽の風力計画「地域の理解進んでいない」](#)
- ・[風力発電「中止ドミノ」 関西電力に続きオリックスも](#)

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.